

巻頭言： 学校の要としての養護教諭

著者	並木 正
雑誌名	聖路加国際大学教育実践論集
巻	2
ページ	i-i
発行年	2022-03-01
URL	http://doi.org/10.34414/00016699



[巻頭言]

学校の要としての養護教諭

このたび、本学「聖路加国際大学実践論集」第2巻の発刊にあたり、執筆に関わられた皆様にお礼申し上げます。発刊に際し、一言述べさせていただきます。

養護教諭は学校の要と言って良いと思います。学校の健康教育の中心となって身体検査や予防接種を行っています。日々の児童・生徒の怪我の手当や、感染症による学級閉鎖や休校の措置について管理職の判断の中心となる資料を提供しています。学校におけるコロナウィルスの感染拡大防止策の実施に大きな働きをしています。身体健康だけでなく、心の健康の拠り所でもあり、教室に居られなくなった児童・生徒が保健室で養護教諭に慰められて教室に戻っていくこともあります。また学校によっては不登校傾向の児童・生徒が保健室に登校しているところもあります。

このように、養護教諭は児童・生徒の本質に一番近い関わりをしていると言えます。教科担当や学級担任は、各授業を通しての児童・生徒を見ているわけですが、児童・生徒は自分の成績がどう評価されるかを意識することが多くあります。しかし、養護教諭は児童・生徒の成績評価に関わることはありません。そのため、養護教諭はより児童・生徒の本音に近いところで接することになります。児童・生徒のことは養護教諭に聞くのが一番なのです。

養護教諭を目指す学生の皆さんには、実践論集に掲載された内容を踏まえ、在学中に健康教育に関わる資質能力だけでなく、児童・生徒の発達や心理に関する学習も行い、学校に就職して、児童・生徒だけでなく学校の管理職、教員からも信頼される養護教諭になってほしいと思います。

客員教授（教職支援アドバイザー） 並木正